

第45回新潟救急医学会

日時 平成14年11月9日(土)
午後1時30分～
会場 ホテルセンチュリーイカヤ

シンポジウム

新潟県の救急隊員の病院実習の現状と問題点

はじめに

丸山 正則

新潟県立中央病院救急部長

救急救命士の気管挿管問題が社会的な反響を呼び、今やどの地域においても救命救急士のメディカルコントロール(以下MC)の整備が焦眉の急となりつつある。長い海岸線と2つの島、全国5番目という広大な面積に多くの過疎地域に31もの消防を有し、おそらく全国有数と言ってよい医師不足の新潟県で、県下統一的なレベルでどの程度までのMCが可能であろうか。

おりしも、厚労省の諮問委員会で特定行為の拡大が論議され、県庁福祉保険部では県下統一のMC実現に向けて救急医療協議会の立ち上げが企画されている。このときを捕らえ、県下全域とは言えないまでも、できるだけ広域的に選ばれた各地域における救急隊員の病院実習の現状をつぶさに把握することは、今後の県下統一的MC実現の上で大いに参考になろう。今回のシンポジウムが、可能な限り地域格差のない、質の高いMC実現の一助となれば幸いである。

I. 病院実習に対するアンケート調査の集計結果発表

アンケート「県内各地域における病院実習の現状」集計結果

岩崎 陽, ほか12名・丸山 正則*

上越消防事務組合救急救命士

新潟県立中央病院救命救急センター*

新潟県の救急隊員の病院実習の現状を全般的に把握すべく、以下のアンケート調査を行った。県下31消防局および本部を対象に、主に1) 署の概略について、2) 平成13年1年間の救急出動状況について、3) 署と所轄病院との関連について、4) 病院実習について、5) 事後検証について、6) 講義、勉強会、学会出席などに関して、7) 将来の救急救命士の病院実習に対する認識について、8) 現状の病院実習に対する評価と問題点、の8項目に渡り、43の設問に回答してもらった。回収率は100%であった。すべての回答結果を載せることは、紙面上不可能なので、以下主だった集計結果のみを列挙する。

平成13年1年間の特定行為実施数は、新潟177件、上越150件、長岡108件と3都市で多いが、0件の消防も4地区あった。

特殊器具による気道確保は、新潟、上越が100件以上であるが、他はすべて50件以下で、0件という地区が8ヶ所あった。

除細動実施件数は、新潟21件、長岡12件で他はすべて10件以下であった。

静脈確保は新潟のみ102件と断然に多いが、他は50件以下で、0件が17地区あった。

2次3次患者の受け入れ病院が定まっている地区といない地区はほぼ50%ずつであった。

その受け入れ体制に対する満足度、十分不十分の比率も同じくほぼ50%ずつであった。

実習受け入れ病院が定まっている地区は26消防(84%)。

救急救命士の就業前実習の施行率は87%、就業後実習の施行率は67.7%。

事後検証の施行率は25.8%であるが、その回数となると年1回～24回とばらついていた。

救急救命士の実習は30地区の消防が義務化さ